

2. ホームページコンテンツの更新

(1) コンテンツの更新

海外視察、社会実験の報告など新たなコンテンツを順次格納し、サイトのアップデートを行い、地権者、県民・市民に情報発信の充実を図った。

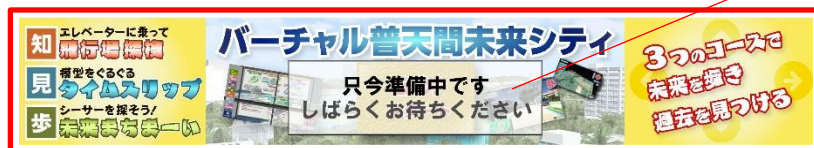
更新項目は、以下のとおりである。

【更新項目】

- ・トップページのリンクバナーの追加更新
- ・海外視察の実施報告
- ・社会実験（普天間飛行場跡地利用パネル展含む）の実施報告

1) トップページのリンクバナー等の追加更新

仮想空間「バーチャル普天間未来シティ」は、業務委託先のサイトであり、令和8年度業務を開始するまではへのリンク切れとなるため、バナーを更新した。



リンク切れの説明

トピックスの部分については、6項目の一覧表示が小さくて見づらいこと、今後に項目が増加することが予想されることから、シンプルな配置に変更した。



トピックスのレイアウトを変更



また、ページ後部に「みどりの中のまちづくり」の説明、詳しい説明ページへのリンク、海外事例視察の各ページへのリンクバナーを追加した。なお、「緑」と「みどり」の表記が混在していたが、跡地の将来像を表現する箇所については、「みどり」に統一した。



2) 海外視察の実施報告

インドネシア視察のページを掲載した。



ジャカルタ

ジャカルタ Daerah Khusus Ibukota Jakarta

BSD (ブミ・スルボン・ダマイ) シティ

大規模な開発 複合的な都市開発

- 面積は約6,000ヘクタールに及び、住宅地に加え、教育機関、医療施設、商業施設、展示会場などが配置されています。
- 幼稚園から大学、ショッピングモールやオフィス等、様々なライフステージに対応したまちづくりを行うことで、付加価値をつけています。
- 開発は3つの主要フェーズに分けて段階的に進められています。第1フェーズ(約1,500ha)は完了し、現在は第2(約2,000ha)・第3フェーズ(2,500ha)が進行中です(2035年完成予定)。

スマートシティづくり

- 公共交通起点の都市設計やデジタル拠点の整備が進められており、ICT産業の集積が特徴です。
- スマートシティならではの住みやすさとして、街の情報を一元化して見ることができる住民専用のアプリ開発や、交通違反者を取り締まれるスマートセキュリティの整備等のスマート技術開発に力を入れています。



BSDのショッピングモール



BSDシティのマスタープラン

ジャカルタの BSD 地区・スナヤン地区・デルタマスシティ地区の概要を掲載



スナヤン地区

複合的な都市開発 日系企業による開発

- 首都の中心街における約19ヘクタールに及ぶ開発です。商業、住宅、オフィスなどの複合開発として、40年間のBOT(一括事業請負後譲渡)方式で事業が進められています。民間事業者が公共施設等を建設して管理・運営し、事業期間終了後に国や自治体に所有権を委譲します。
- 日系のゼネコン(総合建設会社)が設計から施工、管理までを実施し、施設の運営・計画・管理の技術継承に注力しています。

緑と一体となったまちづくり

- 国立競技場を中心とする緑豊かな環境に恵まれたエリアで、高級住宅街にも隣接しており、商業・ビジネスの中核エリアでもあります。



高級ショッピングモール「スナヤン」



スナヤン地区エリア図 出典：PT. Senayan Trikarya Sempana



デルタマスシティ



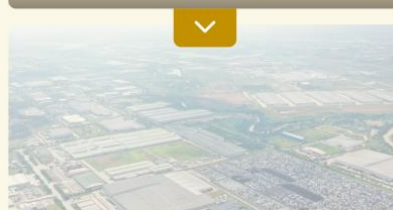
デルタマスシティ

大規模な開発 日系企業による開発

- 1993年より始まった約3,200haの開発事業です。現地企業と日系の総合開発商社が開発主体となって都市と産業の調和を目指したまちづくりを進めています。
- 当初は首都ジャカルタのベッドタウンという位置付けでしたが、日系の製造業の企業進出が多くなったことから、プカシ県の行政庁舎と高速道路の入り口を誘致し、工業用地として用途転換が行われました。

緑と一体となったまちづくり

- マスタープランでは緑地面積10%確保が定められており、河川周辺に緑地を配置している。現在は、商業エリアの緑化推進を検討しています。
- デルタマス・シティでは、産業基盤整備を先行させ、その後住宅・商業機能、都市中枢機能、スマートシティ化へと段階的に都市機能を高度化するフェーズ開発が採用されています。これにより初期投資回収と都市価値の段階的向上を両立する開発モデルが構築されています。



バリ Pulau Bali

バリのサヌール地区・ヌサドゥア地区の概要を掲載

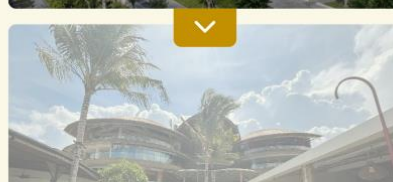
サヌール地区

世界的な観光拠点の整備

- サヌール地区は、バリ島南部のビーチ沿いに位置し、古くから外国人観光客が訪れるリゾート地として知られていました。
- 一方、インドネシアでは年間200万人が医療サービスのために海外渡航しており、医療費が国外流出している問題があったため、国内で質の高い医療の提供と観光を掛け合わせた医療ツーリズムの開発をするという発想が生まれました。

複合的な都市開発

- サヌール地区は約41ヘクタールと、規模が限られているため、ターゲットを上質な客層に絞り、病院、大規模宿泊施設、癒しを得られる植物園などを整備しています。
- 国営機関が開発運営しており、まちの全体のメンテナンスや公共スペースの管理主体をしています。



マサドゥア地区



ヌサドゥア地区

世界的な観光拠点の整備

大規模な開発

- バリ島の南端に位置する計画的に開発されたリゾート地区で、約350ヘクタールの規模があります。国際空港や港とはバイパスや海上高速道路で結ばれ、アクセスも容易です。
- エリア内には24を超える高級リゾートホテルが立地し、商業施設、博物館、ゴルフ場なども整備。現在では、バリ島を代表する国際リゾートエリアとして定着しています。さらに、国際会議や首脳会談に対応できる施設を2か所備えており、MICE分野にも力を入れています。
- 政府主導で公社（ITDC）が設立されて開発が行われ、現在も管理・運営を行っています。地域社会ガバナンス(協治)の一環として、地元住民、その地域でもともと仕事をしている人々との調和やコミュニティの継続、雇用、販売の機会の創出等も行っています。



今回視察した都市について、インドネシアにおける大規模都市開発のポイントを掲載

今回視察を行った、インドネシアにおける大規模都市開発のポイントとしては、以下の通りです。

- 地区内に経済特区や保健医療特区を整備・活用した規制緩和や税制優遇によって、開発地区の整備促進や優良企業等の誘致促進を図っている。
- 行政の庁舎や大学といった核となる機能の誘致により、雇用や賑わいが生まれ、関連する産業などの誘致につながる。戦略的な機能誘致に当たっては土地の無償提供なども有効。
- 地区内に教育、居住、商業、オフィスといった複合的な用途を効果的に配置することで、相乗的な効果発現が行われている。
- IT技術を活用したセキュリティシステムや交通監視システムといったスマート技術が積極的に導入されている。
- 道路や植栽、清掃といったインフラの整備・維持管理を開発主体が一体で実施することでまち全体のブランド化や質の向上を図っている。
- 開発事業者による鉄道駅の整備や高速道路の入り口誘致など交通基盤との連携にも配慮が行われている。
- 医療や観光といった特徴的な機能を活用し、全体としてのマスタープランを描き、専門の組織などの組成を行いながら魅力ある街づくりが進められていた。

- 『みどりの中のまち』事例のひとつ。動画で見る **シンガポール**
- 『みどりの中のまち』事例のひとつ。フォト・リポート **オーストラリア**
- 『みどりの中のまち』事例のひとつ。フォト・リポート **ドイツ**
- 『みどりの中のまち』事例のひとつ。フォト・リポート **ドイツ(2)**
- 『みどりの中のまち』事例のひとつ。フォト・リポート **フランス**
- 『みどりの中のまち』事例のひとつ。フォト・リポート **フィリピン**
- 『みどりの中のまち』事例のひとつ。フォト・リポート **インドネシア**

『みどりの中のまち』トップに戻る

各海外事例へのリンクバナーを末尾に配置。「みどりの中のまち」へ表記を統一した。

3) 社会実験の実施報告

社会実験の実施についての報告ページを制作した。

(具体的な内容については、前節「教育と連携した取組の実施」を参照)

社会実験の内容を紹介



ReBASE OKINAWA による取組

2026年2月22日、高校生が思い描く未来の跡地利用を試す社会実験を普天間門前広場で開催しました。

本イベントでは、「TRIAL FESTIVAL FOR KIDS & FAMILY 高校生と話そう!」と題し、高校生パフォーマンス、くつろぎ空間、巨大シャボン玉、キッズコーナー(遊び・ゲーム)、キッチンカーの出店のほか、併せて普天間飛行場跡地利用のパネル展示を行いました。

ReBASE OKINAWAとは

県内の高校生を中心として、普天間飛行場などの基地の将来の活用をイメージして取組を行うプロジェクトチームです。2025年11月に開催した、県民フォーラムをきっかけに立ち上げられました。

関連記事 [【戦後80周年平和祈念事業】跡地利用県民フォーラム・パネル展 ～駐留軍用地跡地からひろがる沖縄の未来～](#)



開催概要

名称 ReBASEによる取組 日時 2026年2月22日(日) 10:00~16:00 場所 普天間門前広場

ReBase OKINAWA のきっかけとなった、跡地利用県民フォーラム・パネル展へのリンクを配置

会場風景



会場全景



Welcomeゲート



普天間飛行場跡地利用計画パネル展



高校生パフォーマンス



巨大!!シャボン玉



くつろぎ空間



キッズコーナー



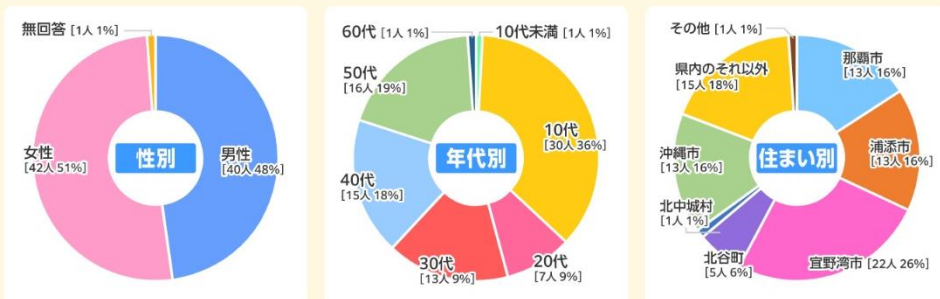
べのカチャシー

来場者アンケート

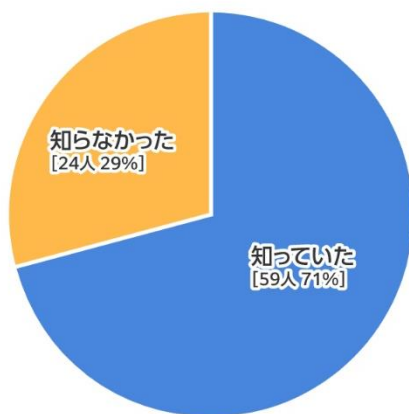
来場者アンケート

来場者アンケート結果を紹介

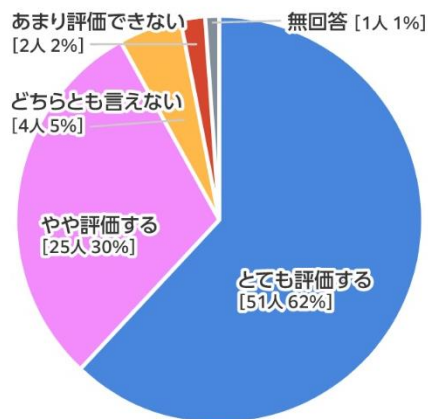
合計来場者数:660人 / アンケート回答者:83人



Q. 返還が予定されている普天間飛行場について、跡地利用を考える取組がされていることを知っていましたか？

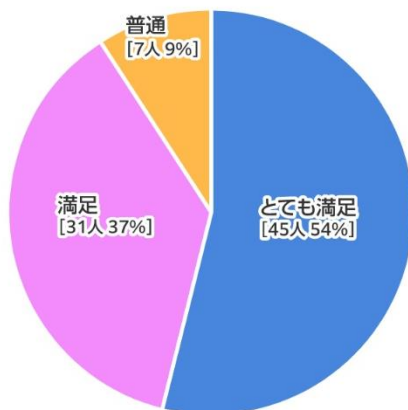


Q. 跡地利用に関する取組についてどう思いますか？



Q. 社会実験の満足度をお聞かせください

Q. 社会実験の満足度をお聞かせください。



普天間高校・浦添高校のメンバーが、ぎのわんヒルズ通り会のクリーン活動に参加し、ReBASE OKINAWAの活動や今回の社会実験の趣旨をPRして呼びかけを行ったんだ。

来場者の意見では、「高校生の若い力が、今後の沖縄の大きな発展につながると思います!」「高校生達が手作りで運営している様子がとてもよかった。」など、若い人たちの取組を評価する声が多かったよ。



キャラクターのコメントにより、アンケート結果のまとめを紹介

(2) アクセス解析（バーチャル普天間未来シティ）

(1) コンテンツの更新(1)において公開した「バーチャル普天間未来シティ」について、アクセス解析を実施した。

1) 概要

対象ページ：<https://futenma-mirai.jp/>



図Ⅶ-2-1 バーチャル普天間未来シティサイト画面

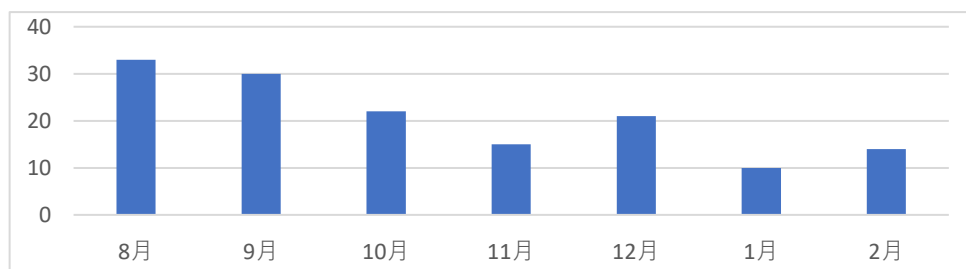
集計期間：令和7年8月1日～令和7年2月28日

2) 集計結果

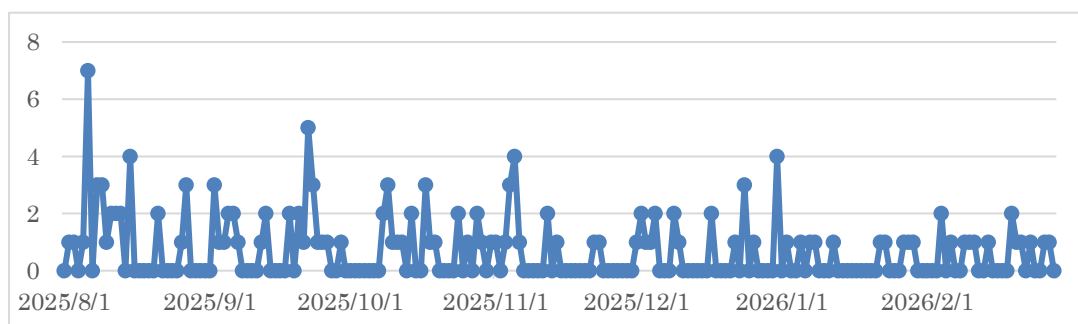
令和年7月年度のアクセス数は月平均20件で総計145件となっている。

表Ⅶ-3-1 月ごとの訪問者数

年	令和7年					令和8年		
月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	総計
訪問数	33	30	22	15	21	10	14	145



図Ⅶ-3-3 月別訪問者数



図Ⅶ-2-2 日別訪問者数